

西条での生活について

工学研究科博士課程前期移動現象工学専攻 一学年 玉木伸茂

西条で暮らして不便を感じたこと

私が西条で下宿生活を始めて二年目を迎えたが、西条の良さとは何かと考えてみると澄んだ空気、瞬く星座、あふれる緑、つまり環境の良さである。

このように学問をする上での環境が整っている反面、我々学生が日常生活をする上で必要不可欠な施設、例えば窓口業務のある金融機関、官庁、大型スーパー・マーケット、書店などは大学から離れた西条市街に集中している。特に官庁、金融機関のようにウイークデーしか窓口業務を行わない機関がそのような場所にあることから、不便を強いられている学生も多いと思われる。私は学部四年間を共で過ごしたが、これらの施設は大学、下宿から半径一キロメートル以内の範囲にあり、さほど不便は感じなかつたよう思う。それに平坦な地形である故、移動手段は自動車や単車がなくても十分まにあつたが、起伏の激しい西条では自動車や単車はなくてはならないものだと痛感している。

また、生活するのに必要な三大要素である衣・食・住にしてもここ西条では、物に恵まれた時代に育った若者の欲求を満足し得るだけの機能を持ち合わせてないようである。衣はともかく食・住に関する受け入れ態勢の貧弱さには閉口している。食に関して言うと、

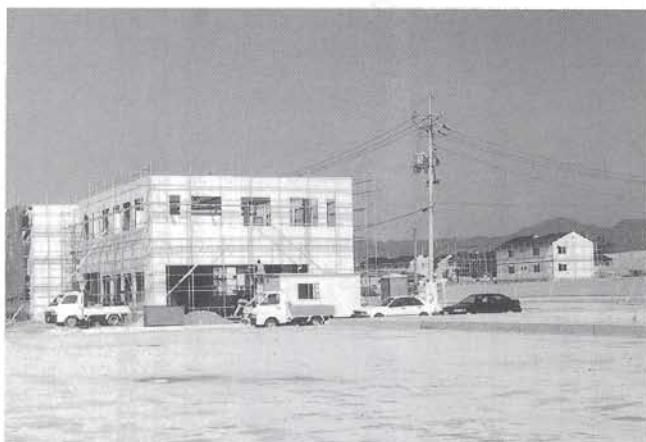
理科系の研究に従事している学生にとつて夜は長く、「ちょっと外で食事を」といった時など、大学近辺には飲食店は少なくて非常に不便を感じている。また、下宿探しの時に誰もが望む「大学と駅に近く買物に便利な場所」というのが少ない。平成六年度の統合移転完了を前に学生アパートの建設が進んでいる(写真)が、これでもまだ供給の方が追いつかないのが現状である。西条のように人口の約一割を学生が占める都市は全国的にみても珍しいが、学生を受け入れる住宅の整備の遅れは学園都市として致命的である。

交通の利便性をみても市街地と大学間を結ぶ交通網の整備の遅れ等が挙げられる。また、街灯の設置は交通安全、防犯の両面からみても必要不可欠である。

以上、主観的な意見ばかり述べてきましたが、より快適なキャンパスライフを送るために、これらの問題点が解決されなければならぬ。

下見地区のこれからの方

広島大学の統合移転のトップをきつて工学部が西条キャンパスに移転してから十年が経つた。その当時の状況に比べると大学周辺にもコンビニエンスストア等ができる、いくらか便利になつたと聞いている。しかし、これか



西条市街に近く大学にも比較的近い立地条件にあるアパート建設現場